

南北アメリカ・スペイン語の接尾辞 -oso/-osa について

三 好 準 之 助

要 旨

現代スペイン語には豊富な接尾辞が存在していて、活発な語形成が行なわれている。本稿の目的は、その接尾辞のなかでも南北アメリカ・スペイン語の特徴のひとつとされている -oso/-osa について、当該地域における使用実態を、最近出版された『南北アメリカ・スペイン語辞典』(DAMI) の記述を再検討して分析し、報告することである。とくに基語が形容詞である派生形容詞の場合、先行文献では強調と解釈されている -oso/-osa の機能が、実例の分析では意味の限定を表現する働きであると解釈される可能性の存在することが判明した。当該接尾辞が基語の形容詞から形容詞を派生するとき、その機能は南北アメリカ・スペイン語的な一面としての和らげ表現であると解釈される可能性を仮定する。

キーワード：南北アメリカ・スペイン語、接尾辞 -oso/-osa、基語形容詞から派生した形容詞、意味の限定、和らげ表現

現代スペイン語には豊富な接尾辞が存在していて、活発な語形成が行なわれている¹⁾。本稿の目的は、その接尾辞のなかでも南北アメリカ・スペイン語の特徴のひとつとされている -oso/-osa について、当該地域における使用実態を、最近出版された『南北アメリカ・スペイン語辞典』(DAMI) の記述を再検討して分析し、報告することである。とくに基語が形容詞である派生形容詞の南北アメリカ・スペイン語的な一面に注目する。

なお、スペイン語の語例に付す日本語訳は、とくに指摘がない限り、高垣（監）『小学館 西和中辞典』を参考にした。そして南北アメリカ・スペイン語の特徴的なスペイン語の単語を「アメ語」と呼ぶことにする。また、「米」は南北アメリカを、「西」はスペインを指すことがある。

1. スペイン語の接尾辞 -oso/-osa について

この接尾辞にはどのような働きがあるのであろうか。そしてどのように南北アメリカ・スペイン語（アメ語）と関連づけられているのであろうか。

1.1. アカデミアの辞書の語義説明

スペインの王立アカデミア (Real Academia Española) の辞書 (*DLE*: Diccionario de la Lengua Española) では、ラテン語の接尾辞 -osus に由来する -oso/-osa に次のような3種類の語義が与えられている。

- 1). 名詞から派生する形容詞を形成する。一般に基語 (base) の語義の豊富さを意味する。boscoso 「樹木の生い茂った」, garboso 「気品のある」, rumboso 「贅沢な」。
- 2). 名詞か動詞から派生する形容詞に現れる。能動的な意味を持っている。afrentoso 「侮辱する」, resbaloso 「よく滑る」, tropezoso 「たどたどしい」。
- 3). 形容詞から派生する形容詞を形成する。基語 (primitivo) の意味を和らげたり強めたりすることがある。gravoso 「厄介な」, voluntarioso 「熱意のある」, amarilloso 「黄色っぽい」, verdoso 「緑色がかった」。

この説明は -oso/-osa のスペイン語における一般的な語義を提示しているが、とくにアメ語のことには言及されていない。

1.2. Moliner の語義説明

Moliner の辞書 (1998) では、-oso/-osa は名詞か動詞から派生する形容詞の接尾辞であるとされており、形容詞からの派生には言及されていないが、南北アメリカの話者は特にこの接尾辞を好む (Los hispanoamericanos son especialmente aficionados a este sufijo) という指摘があり、名詞 alboroto 「騒動」か動詞 alborotar 「大騒ぎをする」から派生した形容詞 alborotoso 「騒ぎ立てる」という例が出されている。

この接尾辞は一般的に、スペイン語話者に南北アメリカ的であるという印象を与えているのであろう。

1.3. NGLE の説明

21世紀初頭までのスペイン語研究の成果を集大成した『新スペイン文法』(NGLE 2009)には、品質形容詞の特徴的な接尾辞の解説において、-oso/-osa に関して次のような指摘が見られる。

この接尾辞は現代スペイン語の品質形容詞を形成する接尾辞のなかで最も生産的なもののひとつである。その基語 (base léxica) としては、名詞 (その派生語は N-oso)、動詞 (その派生語は V-oso)、形容詞 (その派生語は A-oso) がある。派生の過程は共時態で解釈する (2009: § 7.3a)。共時態分析では基語の想定に揺れが起り、基語が名詞か動詞か (pringoso 「油じみた」が名詞 pringue 「脂汁」からの派生語か動詞 pringar 「油で汚す」からの派生語か)、動詞か形容詞か (molestoso 「煩わしい」が動詞 molestar 「困らせる」からの派生語か形容詞 molesto 「煩わしい」からの派生語か)、という点で解釈が分かれる (2009: § 7.3b)。

1.3.1. N-oso の場合

この派生の場合、可能な意味は「Nを持っている」である。たとえば arenoso 「砂の、砂質

の、砂状の」とか peligroso 「危険な」である (2009: § 7.3o)。また、古語の dineroso 「大金持ちの」のように N の概念の豊富さを表現したり (2009: § 7.3p), angustioso 「苦しい, つらい」のように N の概念を生成するような意味が多い (2009: § 7.3q)。

N-oso の派生語は南北アメリカのいくつかの地域に特徴的なものが豊富に存在する。チリやアンデス地方の国々で使われる demoroso 「ゆっくりした」や、アンティル地域で使われる, lija 「へつらい」(スペインの標準語では「紙やすり」) から派生した lijoso 「ざらざらした, へつらいの」などがある (2009: § 7.3r)。

1.3.2. V-oso の場合

この型の派生語は, 古くは現在よりも頻繁に使われていたが, 残っているものは細々と使われている。チリやラプラタ地方やスペイン南部で preguntón と共存して使われている preguntoso 「質問の多い」などである (2009: § 7.3s)。

1.3.3. A-oso について (2009: § 7.3b)

派生形容詞 A-oso については, 「形容詞基語からの -oso/-osa の派生形容詞はあまり豊富ではないが, アメ語には (そして時にはスペインのスペイン語に) elegantoso (メキシコやアンデス地方の一部では elegantioso), intelectualoso, maloso, その他の類似語のような, ときに遊び的な語形成 (formaciones, a veces lúdicas) が存在する。チリやラプラタ地方やアンデス地方では roto («ぼろを着た」) が使われる。南北アメリカの多くの国々で使われる形容詞 molesto は, 「形容詞の」 molesto と関連付けられるが, また, 「動詞の」 molestar とも関連付けられる」(その場合には V-oso) という指摘がある。

上記の引用部分によって, 形容詞から派生する -oso/-osa の形容詞はアメ語の特徴的な語形成である, と理解されよう。DLE によれば, elegantoso は「少し優雅な」という意味を, maloso は物事について「まったく悪いわけでもない」(使用域: ベネズエラ) という意味を持っているが, intelectualoso は DLE の見出し語になっていない。roto は harapiento 「ぼろを着た」という意味であるとされているが, DLE では 'andrajoso' (harapiento と同義) となっているし, その基語である形容詞 roto にも第 1 義として 'andrajoso' という語義が与えられているから, 派生形容詞の roto は元の形容詞 roto のほぼ同義語である, と解釈することができる。molesto は形容詞 molesto から派生したとも, 動詞 molestar から派生したとも解釈することができるということであるが, DLE では molesto の語義が 'que causa molestia' であるが, これは molesto の第 1 義と同じであることから, molesto は molesto と同義であると解釈することができる。

形容詞から派生する -oso/-osa の形容詞は, DLE の -oso/-osa の第 3 の語義に相当するが, その働きは「基語 (primitivo) の意味を和らげたり強めたりすることがある」ということである (1.1.)。上記の NGLLE の説明に含まれている例では, elegantoso と maloso は元の形容詞の意味

を和らげているが、*rotoso* と *molestoso* はほぼ同義語である。同義語の形成であれば、それは「ときに遊び的な語形成」と呼ばれているのであろうと思われるが、このことは、評価の派生現象を扱う NGLE (2009: § 9.1f) で、「南北アメリカ・スペイン語で、そしてそれに比べればヨーロッパのスペイン語ではまれに、接尾辞 *-oso/-osa* で形成される陽気な意図 (*intención festiva*) のいくつかの語は、形容詞の派生語である」が、それらは接尾辞 *-oso/-osa* で形成されるその他の語 [N-oso や V-oso] とは、元の語が形容詞であるという点と、評価の派生現象の特徴ともいえる感情的なニュアンス (皮肉, 和らげなど) (*ironía, atenuación, etc.*) をもたらすという点で異なっている、と言い換えられている。

2. Kany の解釈と語例

南北アメリカ・スペイン語の先駆的研究者のひとりである Charles E. Kany (1895-1968) は、有名な三部作 (アメリカ・スペイン語の統語法・意味論・婉曲語法) を出版しているが、その意味論 (本稿ではスペイン語版を利用) (1962) のなかの第 6 章 (結合形態論) で接尾辞を扱っている。

2.1. Kany の解釈

接尾辞 *-oso/-osa* について、Kany (1962: 126) は次のように説明している。この接尾辞は基語 (*sustantivo primitivo*) の特徴の所持を指す。基語は名詞 (*orgullo* 「誇り」から *orgullosa* 「誇りにする」), それほど多くはないが動詞 (*fatigar* 「疲れさせる」から *fatigoso* 「疲れる」) あるいは形容詞 (*verde* 「緑色の」から *verdoso* 「緑色がかった」) である。南北アメリカではこの接尾辞で新たな語形を作り出す傾向が増えている。

Kany もこの接尾辞が南北アメリカで好まれていると観察している。

2.2. Kany の語例

Kany (1962: 126-129) は 64 の語例を挙げている。しかし記述は語例とその使用地域と語義に限られ、その元となる基語は指示されていないので、それぞれが N-oso か V-oso か A-oso か、の区別は不明である。

2.3. 一般語的性格の語例

Kany の 64 の語例にはどのような一般語的性格があるのであろうか。それらのなかには、アカデミア協会が 2010 年に出版した *Diccionario de americanismos* (DADAA) にも三好が 2020 年に出版した『南北アメリカ・スペイン語辞典』(DAMI) にも収録されているものが 30 例ある。その語例と語義のみを挙げておく。

adefesioso 「ばかな」, amarroso 「渋い」, alborotoso 「騒ぎ立てる」, alegoso 「議論好きな」, amarilloso 「黄色っぽい」, angurrioso 「腹をすかせた」, borrachoso 「よく酔っぱらう」, brillante 「光輝く」, carcoso 「汚い」, carrasposo 「ざらざらした」, correntoso 「急流の」, demoroso 「のろまな」, disticoso 「気取った」, elegante 「しゃれた」, empeñoso 「忍耐強い」, encomioso 「賞賛の」, enfermoso 「病弱な」, filoso 「とがった」, hablantinoso 「おしゃべりな」, ideoso 「変人の」, jailoso 「上流階級の」, labioso 「おしゃべりな」, malgenioso 「気難しい」, motoso⁽¹⁾ 「(髪) 縮れた」, motoso⁽²⁾ 「山地出身の」, paramoso 「雨の多い」, remilgoso 「気取った」, rotos 「ぼろを着た」, torrentoso 「激流の」, veranoso 「乾燥した」。

なお、DADAA にも DAMI にも収録されていない語例として、以下の 17 語がある。

agelivioso 「気難しい」, aprensioso 「神経質な」, atencioso 「注意深い」, balsoso 「ふかふかの」, cochoso 「汚い」, conchoso 「濁った」, encantoso 「魅力的な」, exitoso 「成功している」, extraño 「驚いた」, ficcioso 「心中を見せない」, lapidoso 「退屈した」, morroñoso 「弱々しい」, palidoso 「生気のない」, pretensioso 「見栄っ張りの」, quebroso 「もろい」, suertoso 「幸運な」, inviernos 「よく雨の降る」。

3. DAMI の記述の再検討と分析

DAMI の記述は、基本的に、見出し語－品詞－語義、①使用地域、②アメ語である特徴（語義変化、語形成、先住民語系語など）、③その他の特徴（スペインの標準語での語義、西や米の同義語、米の熟語など）、という順でデータが並べられている。接尾辞 -oso/-osa を伴う派生語としての語例の場合、アメ語である特徴は語形成である。

なお、本稿は接尾辞 -oso/-osa を伴う派生語形成の様相を分析して報告するものであるから、論考の焦点を絞るため、とくに必要と思われる場合を除いて、使用地域の記述は省略する。問題のアメ語は形容詞であり、語尾が -o/-a であるが、2.2. の Kany と同じように、男性系のみを提示する。

3.1. 語例全般について

DAMI には接尾辞 -oso/-osa を伴うアメ語が 260 語含まれている。それらの語の派生に関する記述を再検討しながら分析した結果、以下のような諸点が明らかになった。

3.1.1. 派生語の品詞

接尾辞 -oso/-osa は、アカデミアの辞書 (1.1.) でも Moliner (1.2.) でも NGLE (1.3.) でも、

(品質) 形容詞を形成すると説明されている。しかしアメ語では、この接尾辞を伴った語例が男女名詞としても使われていたり、男女名詞としてのみ使われていたり、男性名詞としてのみ使われていたりしている。

形容詞であるとともに男女名詞としても使われている語例として、以下の52語が含まれている。alborotoso「騒動を引き起こしやすい(人)」, ambientoso「けんかつ早い(人)」, ardiloso「悪事をたくらむ(人)」, aspavientososo「(痛みなどの)表現が大げさな(人)」, berrinchoso「すぐに腹を立てる(人)」, bulloso「騒動を起こす(人)」, cantaletoso「(小言や注意を)くどいほど繰り返す(人)」, caratoso「(皮膚病の)カラテにかかっている(人)」, ceboso「惚れっぼい(人)」, champoso「頭髪がもじゃもじゃの(人)」, demoroso「(行為が)のろい(人)」, elegantioso「へたに上品ぶる(人)」, encajoso「しつこくて煩わしい(人)」, fañoso「鼻にかかった話し方をする(人)」, gangarrioso「趣味の悪い装身具の好きな(人)」, granoso「にきび面の(人)」, guaposo「けんかつ早い(人)」, ideoso「偏執狂の(人)」, labioso「お世辞を言う(人)」, ladilloso「しつこくて煩わしい(人)」, lagañoso「目やにの出ている(人)」, lechoso「運のよい(人)」, libertoso「(上司や親の言うことに逆らう)反逆的な(青年男女)」, lipidioso「よく自分の意見にこだわって頑固な議論をする(人)」, luchoso「粘り強く努力する(人)」, malacatoso「ならず者風の(人)」, maldoso「やんちゃな(人)」, malgenioso「性格の悪い(人)」, matraquilloso「依頼や質問を繰り返してうんざりさせる(人)」, mechoso「髪が豊富な(人)」, michoso「酒好きな(人)」, motoso「髪が縮れている(人)」, mufoso「悪運をもたらす(人)」, nevadoso「(不快症状を引き起こす大気状態の)ネバダで不快になっている(人)」, niguatoso「皮下にスナノミの卵を生みつけられている(人)」, ñañoso⁽¹⁾「鼻声の(人)」(チリ), ñañoso⁽²⁾「痛みなどを大げさに表現する(人)」(アルゼンチン), pachangoso「お祭り騒ぎの好きな(人)」, palomilloso「悪ふざけの好きな(人)」, pantaloso「大げさな表現で虚勢を張る(人)」, peraltoso「いつも強い安酒を飲む(人)」, perecoso「(議論や争いに介入して)漁夫の利を占めようとする(人)」, perreroso「けんかつ早い(人)」, pimentoso「快活で面白い(人)」, politicooso「政治に口出しする(人)」, quimboso「体をゆすって歩く(人)」, rechinoso「なにかにつけて不平を言う(人)」, reinoso「内陸部の(住人)」, rotooso「(身なりの)みすぼらしい(人)」, salsoso「媚びるのが好きな(人)」, tigicioso「けちでずる賢い(人)」, toposo「お節介な(人)」。

男女名詞だけの語義の語が jiotoso「湿疹の患者」, mercantoso「商船の乗組員」, primarioso「小学生」, rascoso「アルコール中毒患者」, tecoso「無駄なおしゃべりの好きな人」の5語, 男性名詞だけの語義の語が bituminoso「アスファルト」, bufoso「(回転式)ピストル」の2語含まれている。

3.1.2. 派生の解釈に問題のある語例

派生の解釈の過程に問題のありそうな語例に以下のものがあつた。34例であるが、3.1.1. との

重複が4例 (fañoso, malgenioso, ñañoso⁽¹⁾, toposo) あるので、新たに紹介する語例は30語となる。

achairoso「これ見よがしの」は米の名詞 chairo「(ジャガイモの煮込み料理の) チャイロ」に接尾辞 -oso/-osa が加わっているが、それに動詞形成用の接頭辞 a- が付いている、と解釈されている。achairar のような動詞が存在するのであろうか。

alteroso「高められた」は西の異義「乾舷の高い」からの語義変化であると解釈されているが、可能性として、西の形容詞 alto「高い」に性質の意味の接尾辞 -ero が加わり、接尾辞 -oso/-osa が後続しているという解釈が指摘されている。NGLE (2009: § 7.3e と f) は接尾辞 -oso/-osa の変種として -ajoso や -uoso に言及しているが、Moliner (1998) は -oso, -a の見出し語のところで、接尾辞 -oso/-osa は -ajoso などを例に出して別の接尾辞に上乘せられる可能性のことに触れている。この alteroso もこの上乘せの例であらうか。

amargoso「すこしにがい」は西の同綴語の異義「にがい」の語義変化であると解釈されているが、可能性として、西の形容詞 amargo「にがい」に接尾辞 -oso/-osa が付加されたとも考えられる。

camperuso「人付き合いの悪い」は西の形容詞 campero「田舎の」に接尾辞 -oso/-osa が付加された語形成の例であると解釈されている。DLE にも NGLE にも接尾辞 -uso, sa が登録されていないので、このように解釈されたが、それでいいのであろうか。

carmelitoso「栗色がかった」は米の名詞 carmelita「栗色」からの派生とされているが、西の carmelita には「栗色の」という形容詞の意味もある。どちらの派生語かは決めかねる。

caroso「(白人ではないが) 皮膚が白くて金髪の」はケチュア語 ccara「皮膚」に接尾辞の -oso/-osa が直接付加されている。米には cara「(皮膚病の) カラテ」がケチュア語 ccara「むき出しの」からの派生語として登録されているが、cara「皮膚」という派生語は存在しないのであろうか。存在していれば、caroso はそのスペイン語の名詞からの派生語となろう。

carranchoso「ざらざらした」は米の同義語 corronchoso の変異形として扱われている。変異形であるとすれば、それを語例として扱うことに問題はないのであろうか。

casoso「ざらざらした」も同義のケチュア語 kkhaskka に直接、接尾辞 -oso/-osa が付加されたものと解釈されている。kkhaskka から形成された米の名詞は存在しないのであろうか。

claroso「(手加減しないで) ずけずけものを言う」は、米の同義語 claridoso からの語形成であると解釈されているが、西の形容詞 claro「あけすけな」に接尾辞 -oso/-osa が付加されて形成された可能性はないのであろうか。

contentoso「上機嫌な」は西の形容詞 contento「満足している」からの派生語であるとされているが、西の動詞 contentarse「満足する」に接尾辞 -oso/-osa が付加されて派生した可能性も認められるであらう。

correntoso「急流の」は西の形容詞 corriente「流れている」に接尾辞 -oso/-osa が付加された

派生語として扱われている。西の女性名詞 corriente「流れ」に接尾辞 -oso/-osa が付加された
と解釈する可能性もあろう。

detaloso「細心の注意をして行動する」は西の名詞 detalle「詳細、配慮」に接尾辞 -oso/-osa
が付加された派生語として扱われている。しかし、基語が西の動詞 detallar「詳しく説明する」
である可能性もあろう。

fachoso「見てくれのいい」は米の名詞 facha「思い上がり、うぬぼれ」に接尾辞 -oso/-osa が
付加されたと解釈されているが、その派生語の語義が基語の意味とうまくつながらない。facha
のほうにこの派生語の意味とつながるような異義があるのであろうか。

おなじように fañoso「鼻にかかった話し方をする(人)」は西の形容詞 fañado「(動物)1歳
の」に接尾辞 -oso/-osa が付加されたものと解釈されているが、両者の語義につながりを認める
ことは可能であろうか。あるいは別の基語が存在するのであろうか。

feroso「嫌悪感を抱かせる」は語形成のアメ語であろうが、語源不明である。西の名詞 fiera
「肉食獣」に接尾辞 -oso/-osa が付加されたのであろうか。

glamorado「(女性)魅惑的な」の基語は英語の glamo(u)rous であろう。それに接尾辞 -oso/-
osa が付加されたと解釈されているが、単に、基語の語尾をスペイン語的に変形させたものであ
ろうか。

guaruso「(グァロなどの)焼酎を飲むのが好きな」は、camperuso と同じく、接尾辞 -oso/-
osa の変種の -uso/-usa で形成されている、と解釈されているが、それでいいのであろうか。

jailoso「上流社会の」(コロンビア)も基語は英語の表現 high life「上流社会の生活」である
とされているが、英語から形成されたアメ語の jailáif(チリ)からの形成であらうか。

malacaroso「怒った顔をした」はコロンビアで登録されている。アメ語の名詞に malacara が
あるが、それはチリ、ウルグァイ、アルゼンチンで登録されていて「(馬)頭部に白い縞のある」
という意味である。また、西の名詞句 mala cara は「(体の)具合の悪そうな顔」という意味で
使われる(たとえば Gutiérrez 1996)。それゆえ、DAMI では西の形容詞 mala「悪い」+西の
名詞 cara「顔」に接尾辞 -oso/-osa が付加されたものであると解釈されているが、それでいいの
であらうか。あるいは、コロンビアあたりで名詞句 mala cara が「怒った顔」という意味で使
われているのであろうか。

malartoso「(人)顔つきの悪い」は語源不明として扱われている。西の形容詞 mala「悪い」
+西の名詞の arta「(植物)オオバコ」か arto「(植物)クコ」に接尾辞 -oso/-osa が付加された
という語形成も提示されているが、その可能性はあるのであろうか。

malaturaloso「不自然な」も語源不明である。ペルーで登録されている。これにも西の形容詞
の mala「悪い」と natural「自然な」に接尾辞 -oso/-osa が付加された可能性が提示されてい
るが、西の形容詞 mala よりも西の副詞 mal が関与しているのであろうか。

malgenioso「性格の悪い(人)」は西の表現 tener mal genio「気難しい」での mal genio とい

う名詞句が基語となる。そうすると基語は名詞ではなくて名詞句である。

motoso 「(刃物) 刃がとがっていない」はケチュア語 muttu 「鈍くなった」に接尾辞 -oso/-osa が付加されて形成されたと解釈されている。そうすると、基語は先住民語の同義語である、ということになる。

ñañoso ⁽¹⁾ 「鼻声の(人)」は語源不明である。しかし可能な基語として、米の形容詞 ñato 「鼻の低い」かケチュア語の t'añu 「低い鼻」が提示されている。

pavoso 「不吉な」は米の名詞 pava 「凶運」からの派生語として扱われているが、西の形容詞 pavoroso 「おそろしい」の関与も指摘されている。それは可能であろうか。

picoso 「(料理) トウガラシ辛い」は、西にも同綴語「辛辣な」が存在するので、語義変化であると解釈されているが、可能性として西の動詞 picar 「(トウガラシなどが口や舌を) ヒリヒリさせる」に接尾辞 -oso/-osa が付加されて形成されたのではないかと指摘されている。

pintoso 「着飾っている」(コロンビアも)はコロンビアの名詞 pinta 「新品の優雅な衣服」に接尾辞 -oso/-osa が付加されて形成されたと解釈されている。しかし、コロンビアの pinta の異義(形容詞で「着飾っている」)からの派生語である可能性もあるのではないかと。

pitoso 「(とくに人が) 厄介な」は語源不明とされている。そして語形成の可能な解釈として、西の名詞 pito 「小石」に接尾辞 -oso/-osa が付加されて形成されたか、あるいは西の北部方言の同綴語「(人) よくかんしゃくを起こす」からの語義変化か、という指摘がある。

respetoso 「丁重な」(チリ)は、チリにおける語形成の全般的な傾向から判断して、西の同義語 respetuoso からの語形成であると解釈されている。しかし西には古語であるが、同義の respetoso が Alonso に登録されている。単なる古語の採用による語形成であろうか。

sangroso 「血だらけの」は西の名詞 sangre から派生しているとされているが、西の動詞 sangrar 「出血する」からの派生であるとも解釈されるであろう。

sexapiloso 「性的魅力のある」は英語の表現 sex appeal 「性的魅力」に接尾辞 -oso/-osa が付加されて形成された。そうすると、基語はスペイン語の名詞でも動詞でも形容詞でもないことになる。

temblajoso 「(体の一部が) よく震える」は語源不明のアメ語として扱われている。しかし可能性として、西の動詞 temblar 「震える」に行為の意味の接尾辞 -aje が加わり、それに重ねて接尾辞 -oso/-osa が付加されたのではないかと指摘がなされている。上記の alteroso で紹介された語尾 -ajoso の好例であろう。

tierroso 「土の多い」も語源不明のアメ語として扱われているが、可能性として、西の同義語 terroso と西の名詞 tierra 「土」の交差から生まれたか、あるいは西の名詞 tierra に接尾辞 -oso/-osa が付加されて形成されたか、という指摘がされている。

toposo 「厄介な(人)」も語源不明である。可能性として、西の名詞 topo 「モグラ」に接尾辞 -oso/-osa が付加されたか、という指摘があるが、そうすると意味的に基語と派生語がつながり

にくいものの、モグラが厄介な害獣であることからの語形成であろうか。

3.1.3. 間違った派生の解釈

encimoso 「いつも上にいる」は、DAMI ではコーパス (Gómez de Silva) の記述 “**encimoso, encimosa**. (De *encima*.)” に素直に従って、西の副詞 encima 「上に」からの形成であるとされているが、この解釈は間違いであろう。本稿の 1. で紹介されている接尾辞 -oso/-osa の、派生する基語の可能性を考慮すれば、encimoso の基語は、西の副詞というよりも、西の動詞 encimar 「いちばん上に置く」であるとする方が自然であろう。

3.2. その他の語例の紹介

DAMI に含まれている接尾辞 -oso/-osa の派生形容詞を紹介する。全部で 260 語である。語形と語義と基語のみを提示するが、すでに 3.1. で紹介されているアメ語 (90 語) を除いた 170 語を紹介する。基語がアメ語のときにはその語義も示す。

3.2.1. N-oso の例

DAMI には名詞と接尾辞 -oso/-osa の派生形容詞が合計 136 語、記載されている。

基語が西の名詞である形容詞は以下の 64 語である。

adefesioso 「でたらめな」← adefesio; agradoso 「快適な」← agrado; antojoso 「気まぐれな」← antojo; azotoso 「(馬) 急に走り出す」← azote; boqueroso 「口角炎にかかりやすい」← boquera; brillante 「光っている」← brillo; bromoso 「わずらわしい」← broma; bronquinoso 「口論の好きな」← bronquina; bruceloso 「(家畜) マルタ熱菌に感染した」← brucelosis; calichoso 「石灰岩の豊富な」← caliche; carcomoso 「(人) 健康状態が悪い」← carcomo; chaposo 「(人) 頬の赤い」← chapas; circunstancioso 「(人) 些事にこだわる」← circunstancia; cizañoso 「上品ぶつた」← cizaña; claridoso 「ずけずけものを言う」← claridades; comodidoso 「楽な方を選ぶ」← comodidad; coyundoso 「丈夫で柔軟な」← coyunda; criterioso 「見識のある」← criterio; encomioso 「賞賛の」← encomio; espartoso 「ひょろっとした」← esparto; etiquetoso 「儀礼的な」← etiqueta; fiebroso 「熱っぽい」← fiebre; garrapatoso 「(動物) 体にダニが付いている」← garrapata; grisoso 「灰色がかかった」← gris; hambroso 「ひどく腹をすかした」← hambre; hepatitoso 「肝炎の」← hepatitis; levoso 「よくうそをつく」← leva; licuoso 「液体の」← licuor (古語, 「液体」); lidioso 「何にでもけちをつけたがる」← lidia; lloviznoso 「よく雨の降る」← llovizna; malaganoso 「(やり方) いやいやの」← malagana; mantequilloso 「バターのような」← mantequilla; mauloso 「策略の」← maula; melcochoso 「糖蜜のように柔らかくて丈夫な」← melcocha; mormoso 「(殴打などで) 紫色になっている」← muermo; mugroso 「(人) 薄汚くていやな」← mugre; nostalgioso 「郷愁を誘う」← nostalgia; ojoso 「大きな目をした」← ojo; orinoso

「鉄さびの多い」← orin; palabroso「汚い言葉を声高に話すことの多い」← palabra; pañoso「顔に染みのある」← paño; pedruscoso「石くれだらけの」← pedrusco; perjuicioso「有害な」← perjuicio; piloso「とても熱心な」← pila; plastoso「(人) うっとうしい」← plasta; polvososo「ほこりっぽい」← polvo; prejuicioso「先入観を持っている」← prejuicio; pretextoso「(口論に勝つための) 言い訳を探している」← pretexto; rapiñoso「強奪する」← rapiña; remilgoso「上品ぶった」← remilgo; resabioso「(馬など) 悪い癖のついている」← resabio; reverencioso「何度もお辞儀する」← reverencia; riesgoso「危険な」← riesgo; ripioso「(道路などが) たくさんの碎石を含んでいる」← ripio; saudadoso「郷愁を覚えさせる」← saudade; susurroso「ささやくような」← susurro; tinoso「射撃の腕前が確かな」← tino; tiposo「(人) 背が高く優雅で容姿のいい」← tipo; tirrioso「反感を抱いている」← tirria; torrentoso「激流の」← torrente; trafagoso「大忙しの」← tráfago; traposo「ぼろ布のような」← trapo; vaselinoso「ワセリンのように滑らかな」← vaselina; vergüenzoso「恥ずべき」← vergüenza。

基語が米の名詞である形容詞は以下の 72 語である。

agalloso「貪欲な」← agallo「強欲」; agualotoso「じめじめした」← agualotal「床の水びたし」; angurrioso「極端にしまり屋の」← angurria「強欲」; bajuroso「(土地) 湿っている」← bajura「低地」; barrialoso「(土地) 泥の多い」← barrial「泥沼」; berrenchinoso「(物や場所が) 小便臭い」← berrenchín「酔っぱらいの臭い息」; calaminoso「(土地など) 波型の起伏が多い」← calamina「波型の起伏」; canchoso「(犬) 疥癬にかかっている」← cancha「疥癬」; candeloso「(人) 活発な」← candela「(タバコ) ライター」; carachoso「(皮膚病の) カラチャにかかっている」← caracha「(皮膚病の) カラチャ」; carcoso「垢だらけの」← carca「垢」; carranchiloso「カランチルにかかっている」← carranchil「(皮膚病の) カランチル」; catingoso「体臭の強い」← catinga「発汗した人の悪臭」; chacaroso「潰瘍のある」← chácara「潰瘍」; chagüitoso「湿地の」← chagüite「水をかぶっている土地」; chaloso「(人・動物) 不格好な」← chala「トウモロコシの葉と茎」; chanchiroso「ぼろ服をまとった」← chanchira か chanchiro「ぼろ服」; chandoso「疥癬にかかっている」← chanda「疥癬」; charraloso「(土地) 雑草におおわれた」← charral「藪」; chascoso「髪のもつれた」← chasca「もつれた髪」; chichoso「(飲み物) 発酵しかかっている」← chicha「チチャ酒」; chicloso「ねばねばする」← chicle「(樹液の) チクレ」; chilposo「破れた古着を着ている」← chilpa「ぼろの古着」; chiroso「(衣服) 古くてぼろぼろの」← chiro「ぼろ服」; chuchoso「腋臭の臭う」← chucha「わきの下」; chunchoso「(犬など) 疥癬にかかっている」← chunche「疥癬」; churoso「(髪) 縮れている」← churo「巻き毛」; corronchoso「ざらざらした」← corroncho「(鱗がざらざらな川魚の) コロンチヨ」; galletoso「混乱している」← galleta「混乱状態」; gaminoso「浮浪児の」← gamín「浮浪児」; garuoso「小雨模様の」← garúa「小雨, 霧雨」; guabinoso「(巧妙で) とらえどころのない」← guabina「変節漢」; guadaloso「(土地) ぬかるみの多い」← guadal「湿地」; guapachoso「熱帯のリズムの」← guapachá「(歌

と踊りの) グアパチャー]; guiñoso 「縁起の悪い」 ← guiña 「不吉」; hablantinoso 「(どうでもよいことを) 長々としゃべる」 ← hablantina 「べちゃくちゃしゃべること」; huloso 「ゴムのよう」 ← hule 「ゴム」; jarilloso 「ハリジャでおおわれた」 ← jarilla 「(マメ科の木の) ハリジャ」; jeringoso 「(人や物) うっとうしい」 ← jeringa 「わずらわしい人や物」; joberoso 「皮膚病を患っている」 ← jobero 「(皮膚病の) ホベロ」; laberintoso 「騒ぎの好きな」 ← laberinto 「騒動」; lamparoso 「見せかけの」 ← lámpara 「見せかけ」; lavativoso 「厄介な」 ← lavativa 「不都合な問題」; ligoso 「柔軟で丈夫な」 ← liga 「ゴムバンド」; litroso 「リスレアの木陰にいて病気になった」 ← litre 「(ウルシ科の木の) リスレア」; mabitoso 「凶運を持っている」 ← mabita 「凶運」; maldadoso 「(子供) いたずら好きな」 ← maldad 「いたずら」; ñañaroso 「引っかけ傷のある」 ← ñañara 「引っかけ傷」; panquecoso 「パンケーキの」 ← panqueque 「パンケーキ」; paramoso 「雨の多い」 ← páramo 「さっと降る霧雨」; pasposo 「肌荒れのある」 ← paspa 「あかぎれ」; pastoso 「芝が群生している」 ← pasto 「芝」; payanoso 「丸々とした」 ← payana 「気持ちの悪い固まり」; pechichoso 「気取った」 ← pechiche 「ひいき」; pecuecoso 「(人) 足の臭い」 ← pecueca 「足の悪臭」; pegosteoso 「べとべとする」 ← pegoste 「べとべとするもの」; pernicioso 「仕事をしつがらない」 ← pernicia 「仕事を怠ける行為」; pestoso 「風邪が重症の」 ← peste 「インフルエンザ」; pichoso 「目やにをつけている」 ← picha 「目やに」; piltrafososo 「ぼろをまとっている」 ← piltrafa 「ぼろ着」; pinchoso 「魅了して恋に陥らせる」 ← pinche 「臨時の恋人」; rangoso 「豪華な」 ← rango 「豪華」; salitroso 「(人) 悪い運をもたらす」 ← salitre 「度重なる不幸」; suamoso 「沼地の」 ← suampo 「沼地」; tepetatoso 「(土地) テペタテが豊富な」 ← tepetate 「(道路などに使う固い石灰質の地層の) テペタテ」; tequioso 「(子供) 気性の激しい」 ← tequio 「子供の気迫」; topioso 「厄介な」 ← topia 「頑固者」; tunoso 「(植物) 棘のある」 ← tuna 「植物の棘」; vainoso 「(人) 気難しい」 ← vaina 「害悪」; vegoso 「(土地) じめじめした」 ← vega 「湿地」; veranoso 「(月や期間) 雨の降らない」 ← verano 「乾期」; verrugoso 「ベルガにかかっている」 ← verruga 「伝染病のベルガ」。

3.2.2. V-oso の例

DAMI には動詞と接尾辞 -oso/-osa の派生形容詞が 8 語しか含まれていない。

基語が西の動詞である派生語は以下の 3 例である。

apagoso 「(質の悪い葉巻などが) すぐに消えてしまう」 ← apagarse; dejoso 「投げやりな」 ← dejar; onduloso 「うねりのある」 ← ondular。

基語が米の動詞である派生語には以下の 5 語があった。

alegoso 「よく抗議する」 ← alegar 「怒りを込めて論争する」; atoroso 「(人) 厄介な」 ← atorarse 「いじめる」; enchiloso 「(料理) 香辛料が入っている」 ← enchilar 「唐辛子で味付けする」; hostigoso 「げんなりさせる」 ← hostigar 「げんなりさせる」; jilibioso 「すぐに動転する」 ← jilibear 「動転

させる」。

3.2.3. A-oso の例

DAMI には形容詞と接尾辞 -oso/-osa による派生形容詞が 31 語含まれている。この派生語の場合、DLE の説明によれば (1.1.), 派生語は基語の意味を弱めたり (和らげ), 強めたり (強調) する。しかし実態では、基本的には基語の語義と同じ度合の意味を表現していることがある。その場合、同義の表現として扱うことにする。語例にはその三者の区別 (和らげ, 強調, 同義) を加える。そのどれにも相当しないと判断されたものには「?」の印をつける。なお、形容詞と接尾辞 -oso/-osa による派生形容詞ではあっても、名詞としても使われるものが 5 語 (elegantioso, fañoso, guaposo, malacatoso, roto) あるが (3.1.1.), ここではそれらを除外した。

西の形容詞から派生した語例には以下の 21 語があった。

borrachoso 「よく酔っぱらう」(強調) ← borracho 「酔っぱらった」; chiquitoso 「取るに足りない」(?) ← chiquito 「小さい」; convenencioso 「自分勝手な」(同義) ← convenenciero; disticoso 「好きなものだけを食べる」(?) ← distico 「対生の」; dulzoso 「甘ったるい」(強調) ← dulce 「甘い」; elegantoso 「優雅な」(同義) ← elegante; enfermoso 「病弱な」(和らげ) ← enfermo 「病気の」; fragantoso 「芳香性の」(同義) ← fragante; frioso 「寒くなる」(同義) ← frío; libertinoso 「品行の悪い」(同義) ← libertino; maloso 「病気の」(同義) ← malo; modorroso 「眠たそうな」(同義) ← modorro; molestoso 「わずらわしい」(同義) ← molesto (DAMI では基語が形容詞とされている); oliscoso 「(食品) 腐りかけた臭いのする」(同義) ← olisco; picantoso 「少し辛い」(和らげ) ← picante 「辛い」; quimicoso 「(人) 神経質で要求の厳しい」(?) ← químico 「化学の」; regio 「力にあふれた」(?) ← regio 「王の」; salinoso 「塩辛い」(同義) ← salino; tardoso 「のろまな」(同義) ← tardado; tremuloso 「震える」(同義) ← trémulo; zainoso 「腹黒い」(同義) ← zaino。

米の形容詞から派生した語例としては以下の 5 語がある。

aguachentoso 「(果物) 少し水っぽい」(和らげ) ← aguachento 「(果物) 水っぽい」; chercheroso 「弱弱しい」(同義) ← chérchere; cuchitoso 「気取った」(同義) ← cuchito; huachafoso 「気障っぽい」(和らげ) ← huachafo 「気障な」; payastoso 「粗挽きの」(同義) ← payaste。

DAMI に登録されている接尾辞 -oso/-osa による派生語は、合計 260 語であった。派生の過程などに問題のある語例を除くと、上記の 170 語が残った。この接尾辞の基語が名詞のとき (N-oso) の派生形容詞が 136 語記載されていた (西の名詞が 64, 米の名詞が 72)。基語が動詞のとき (V-oso) の派生形容詞はわずか 8 例である (西の動詞が 3, 米の動詞が 5)。そして基語が形容詞のとき (A-oso) の派生形容詞が 26 語含まれていた (西の形容詞が 21, 米の形容詞が 5)。

3.3. 接尾辞 -oso/-osa の機能

Moliner (1.2.) も Kany (2.1.) も、接尾辞 -oso/-osa は南北アメリカのスペイン語で好まれると指摘している。

3.2. では DAMI の記述から接尾辞 -oso/-osa による派生語を抽出した。それは合計 260 語であった。これらの語例はアメ語である。そのことを念頭に置いて、以下で接尾辞 -oso/-osa の機能について考えてみたい。

3.3.1. 接尾辞 -oso/-osa の語源と派生

アメ語では、接尾辞 -oso/-osa による派生語の場合、圧倒的に名詞から派生していることが判明した。つぎが形容詞からの派生語であり、ごくわずかに動詞からの派生語が含まれている。

接尾辞 -oso/-osa はラテン語の -osus に由来する (1.1.)。Hanssen (1913: 147-8) の説明では、ラテン語の -osus は -osu に由来し、ラテン語ではこの活用語尾によって名詞から派生する形容詞が形成されていたが、カスティリヤ語ではラテン語系の hermoso 「美しい」 (lat. formōsus < fōrma) などが残っているものの、それらに caballeroso 「紳士的な」などの新たな派生語が加わる。また、形容詞からの派生語は古典ラテン語では僅かだが、その後、とくにロマンス語で数を増して、verdoso 「緑色がかった」などが生まれた。なお、俗ラテン語とロマンス語では、-osus を伴う形容詞は resbaloso 「滑りやすい」などのような動詞からの派生語でもありうる。

García de Diego (1970: 272) は基本的に上記の Hanssen の説明を踏襲している。すなわち、スペイン語の -oso はラテン語の「豊かさ」の意味の形容詞語尾の -osu に由来していて、(名詞が基語の) 語源的な hermoso などがあり、それらから (名詞が基語の) caballeroso などに広がったが、形容詞基語の verdoso や動詞基語の resbaloso などもある、と説明している。

3.3.2. N-oso と V-oso の接尾語の機能

上記 2 名の研究者による説明から、接尾辞 -oso/-osa は、もともと名詞から「豊かさ」の意味の形容詞が派生するときの活用語尾であり、そこから形容詞基語や動詞基語からの派生が加わった、ということがわかる。アメ語でも名詞基語が圧倒的であるのは、語源的で自然な傾向なのであろう。

Moliner (1998) は、接尾辞 -oso/-osa は南北アメリカの話者が特に好む接尾辞であり、名詞か動詞からの派生語を形成する、と述べている (1.2.)。この接尾辞によって表現されるのは、名詞からの派生語の場合では、名詞が指すものの存在 (espuma 「泡」からの espumoso 「泡の多い」など) やそのものとの類似 (esponja 「スポンジ」からの esponjoso 「スポンジ状の」など) であり、動詞からの派生語の場合では、動詞が表現する行為に関連する特質 (cavilar 「くよくよ考える」からの caviloso 「心配性の」など) である (Moliner 1998: 524)。

DLE（アカデミアの辞書）は、この接尾辞が表現する意味として、名詞基語のときにはその語義の豊かさや能動的な意味を挙げているし、動詞基語のときには能動的な意味を表わす、としている（1.1.）。

上記から、接尾辞 -oso/-osa は、基本的に、名詞を形容詞に、そして動詞を形容詞に、というように、基語とは異なった品詞の語を形成する働きを持っている。すなわち、その派生語は基語と異なった品詞であることを示す機能を持っているのである。名詞や動詞を形容詞にするのであるから、問題の派生語の意味は、基語の名詞や動詞の意味を形容詞的に変化させたものとなる。その場合、接尾辞 -oso/-osa の基本的な機能は「品詞の変換」である。

3.3.3. A-oso の接尾語の基本的機能

基語が形容詞の場合、形容詞が派生して形容詞になるのであるから、問題の接尾辞の機能は「品詞の変換」ではない。では、この場合の接尾辞 -oso/-osa はどのような働きをしているのであろうか。

3.3.3.1. アカデミアの定義について

DLE では、形容詞と接尾辞 -oso/-osa による派生形容詞が表現する意味は、基語の意味を和らげたり (atenuar) 強調したり (intensificar) することがある、とされていて、語例として *gravoso* 「厄介な」、*voluntarioso* 「熱意のある」²⁾、*amarilloso* 「黄色っぽい」、*verdoso* 「緑色がかかった」が含まれている（1.1.）。*amarilloso* と *verdoso* の場合には基語の意味を和らげていることが明らかであるが、そうすると前二者の *gravoso* と *voluntarioso* が基語の意味を強調している語例となるのであろう。しかしながら、*gravoso* 「厄介な」はその基語 *grave* 「重大な」の意味を、そして *voluntarioso* 「熱意のある」はその基語 *voluntario* 「自発的な」の意味を強調しているのであろうか。

Gutiérrez によれば、基語 *grave* の「重大な」に相当する定義は «Que tiene mucha importancia, puede encerrar peligro o tener consecuencias perjudiciales» 「とても重要で、危険を内包したり有害な結果になることがある」であり、*gravoso* 「厄介な」に相当する定義は «Que es molesto o pesado» 「わずらわしかったりうんざりさせたりする」である。また、基語の *voluntario* の「自発的な」に相当する定義は «Que se hace por propia voluntad, y no por fuerza u obligación» 「圧力や義務ではなくて自身の意志によって行なう」であり、*voluntarioso* 「熱意のある」に相当する定義は «Que es constante y se esfuerza en hacer las cosas o en cumplir con sus obligaciones» 「変わらずに、物事をしたり自身の義務を果たしたりする」である。*gravoso* は *grave* の意味を強調しているのであろうか。そして *voluntarioso* は *voluntario* 「自発的な」の意味を強調しているのであろうか。派生形容詞 *gravoso* はその基語 *grave* の意味が、そして派生形容詞 *voluntarioso* はその基語 *voluntario* の意味が、それぞれ特定の状況に適用されたものだ

と解釈されないだろうか。そのように解釈されるとすれば、接尾辞 -oso/-osa が基語形容詞から派生形容詞を形成するときには、この接尾辞はその基語形容詞の意味を強調するのではなくて、基語形容詞の意味を具体的な状況に限定しているだけで、基語形容詞の意味は派生形容詞の意味のなかで同義的に維持されている、ということにはならないだろうか³⁾。基語の意味の適用範囲が限定されていることになろう（適応範囲の限定とは、強調ではなくて一種の緩和であり、広義では和らげの働きであると言えよう）。

3.3.3.2. NGLE の定義について

NGLE は、上記の 1.3.3. で紹介されているように、接尾辞 -oso/-osa による派生語で基語が形容詞の場合、南北アメリカには遊び的な語形成が存在すると指摘している。そのような語形成の例として、*elegantoso*, *intelectualoso*, *maloso*, *rotoso*, *molestoso* というアメ語が挙げられている（しかし *intelectualoso* は DLE にも DADAA にも DAMI にも登録されていない）。DLE では、*rotoso* は *roto* の、*molestoso* は *molesto* の同義語であると解釈されるが、*elegantoso* は 'algo elegante' 「少し優雅な」という *elegante* の語義の和らげの意味が与えられているし、*maloso* も物事について 'que no es mala del todo' 「まったく悪いというわけではない」という和らげの語義が与えられている。しかし *elegantoso* は、DADAA のふたつの語義（人について 'que viste con elegancia' 「優雅に着こなしている」と 'que tiene una apariencia elegante' 「優雅な見てくれの」）は、どちらも *elegante* と同義であると解釈できる。また、*maloso* は、DADAA では、メキシコなどで使われる、人が 'malvada' 「邪悪な」という意味と、人が 'ligeramente enferma' 「すこし病気の」という意味が与えられているが（そこには使用地域にメキシコは含まれていない）、メキシコ語の辞典の Gómez (2001) では 'enfermo' 「病気の」という意味に対応していて、*malo* の同義語として使われていることがわかる。

NGLE によれば、接尾辞 -oso/-osa による派生語で基語が形容詞の場合、南北アメリカには「遊び的な語形成」が存在するし、その場合の「陽気な意図」は感情的なニュアンス（皮肉、和らげなど）をもたらすという。NGLE の語例を検討した結果、形容詞基語の場合、その派生形容詞は、解釈によって基語と同義であったり和らげの意味が加えられたりしていることが判明した。「遊び的な語形成」とは、特別な語義の変化が意識されない同義表現のことを指していると思われる。そして「陽気な意図」は和らげなどのニュアンスをもたらすのである⁴⁾。NGLE には、形容詞から接尾辞 -oso/-osa によって派生した形容詞の場合、基語の意味が強調される、という指摘は見当たらない。NGLE の語例の場合も、問題の派生語が基語の同義語であると解釈されたり、その基語の意味が具体的な状況に当てはめられたりしていることが判明した。後者は基語の意味の適用範囲が限定されていると解釈することができる。

3.3.3.3. DAMI の語例について

DAMI には基語の形容詞に -oso/-osa が付いて形成された派生形容詞が 26 語あった。そのなかで基語の意味の和らげ表現であると解釈できるのが、aguachentoso, enfermoso, huachafoso, picantoso, の 4 語である。

強調と解釈されているのは borrachoso と dulzoso の 2 語である。しかしながら, DADAA によって再検討すれば, borrachoso はバレーで人が «que está continuamente borracha o tiene apatencia de estarlo» 「いつも酔っている, あるいは酔っていたがる」という意味で使われており, チリでは人が «que se emborracha con frecuencia» 「しばしば酔っぱらう」である。基語 borracho 「酔っぱらった」の意味が強調されているわけではなく, その意味が習慣という具体的な状況に限定されて適用されていることがわかる。

他方, dulzoso は, DADAA では dulce の同義語として扱われている。とはいえ, DAMI で「甘ったるい」という語義が与えられている dulzoso は, DAMI のコーパスでは, コロンビアで「甘すぎて味覚に不快感を与える」(Haensch *et al.* 1993: 161) という意味で使われると説明されている。基語 dulce 「甘い」の意味が強調されているとすれば, そのときの意味は「とても甘い」などであろう。このコーパスの定義は「とても甘い」という一般的な強調の意味ではない。派生形容詞の適用を具体的な状況に限定して, 形容詞 dulzoso が修飾する対象の飲食物がそれなりの甘さの度合を超えている甘さによって不快感を与える, という意味であろう。いずれにせよ「甘い」ことには変わりはないので, 場合によっては, DADAA のように dulce の同義語として解釈されることもある, ということであろう。

結局, 上記の 2 語はどちらも基語の意味を強調しているとは解釈できない。基語の意味の適用対象が限定されているのである。部分的な対象への適用となろう。

他方, 基語の意味と同義であろうと解釈された派生形容詞が 16 語あった (cf. 注 1)。

問題は, 残りの 4 語である。その意味変化の種類は「?」で示しておいた。これらの派生語は, Kany が指摘しているように, 基語の特徴を含んではいるが (2.1.), アカデミアの辞書が指摘しているような, 基語の意味の和らげも強調も行なわれていない (1.1.)。chiquitoso 「取るに足りない」← chiquito 「小さい, 幼い」; disticoso 「好きなものだけを食べる」← distico 「(植物) 対生の」; quimicoso 「(人) 神経質で要求の厳しい」← químico 「化学の」; regiooso 「力にあふれた」← regio 「王の」である。

筆者は以下のように解釈する。chiquitoso の場合, 「小さい」ことが「取るに足りない」のは, 一般的な形態の意味が具体的な「価値」の概念に適用されている。適用範囲が限定されている。部分的な対象への適用であろう。disticoso の場合, 「対生」という意味が「好きなものと嫌いなものとの対比」という具体的な意味になり, 「その一方」を指す意味で使われている。これも部分的適用であろう。quimicoso の場合, 「(厳密であるべき) 化学」のその「厳密さ」が具体的に限定された対象の「人の性格」を表現している。regiooso の場合, 「力にあふれた」という派生

語には一般的な「王」の属性のひとつである「力」が適用されている。

DAMI の語例では、そしてその他の資料の語例の検討も加えて考察すると、基語の形容詞から接尾辞 -oso/-osa によって派生する形容詞の意味は、基語の意味を和らげているか、基語の意味と同義であるか、基語の一般的な意味を具体的な対象に限定して適用しているか、であることが判明した。同義と解釈されても、接尾辞の付加によって基語の意味が間接的に表現されているので、和らげ表現であると解釈される可能性が含まれている。

3.3.3.4. A-oso の基本的な意味機能

接尾辞 -oso/-osa は形容詞を派生する機能を持っているが、基語が名詞や動詞なら、その基本的な機能は形容詞への品詞の変換である。基語が形容詞なら、基本的には、基語形容詞の直接的な意味が、派生形容詞では接尾辞の付加によって間接的に表現されている。

筆者は、この接尾辞は和らげ表現をするときの表現手段、すなわち「和らげ手段」(atenuante)である、と仮定したい。和らげ手段とは、「述部の意味を、記述された対象に部分的にしか適用されないことを示す形で修正することに役立つような、小辞・単語・表現」のことである⁵⁾。本稿の場合、「述部の意味」とは基語の意味のことであり、小辞 (partícula) とは接尾辞 -oso/-osa のことであり、「記述された対象」とは派生形容詞の意味のことであり、そして派生形容詞の意味には基語の意味が「部分的にしか適用されない」のである。

他方、この派生形容詞は西の基語形容詞と同義語として使われることが多い。「和らげ表現」の種類を考えると、そこには「発話内行為の力を和らげる表現」も含まれている⁶⁾。西で使用される形容詞に接尾辞 -oso/-osa を付加して派生した米の形容詞を西と同義の語として使用する場合、米の派生語は間接的な表現となり、発話内行為の力が弱まった和らげ表現である、と考えることが可能になる。

A-oso の基本的な意味機能は、基語形容詞の意味の和らげ表現である、と仮定することができる。すなわち、派生形容詞は基語形容詞の意味を和らげている。この意味機能によって、和らげのニュアンスを帯びつつも基語と同義語として使用されることがある。あるいはまた、一般的な基語の意味を具体的な意味に限定して部分的な対象に適用することにもなる。

4. 結論

本稿は、おもに最近出版された辞書の DAMI を資料として、アメ語の接尾辞 -oso/-osa について考察した。この接尾辞は名詞・動詞・形容詞という基語から形容詞を派生する(それぞれ N-oso, V-oso, A-oso)。その派生形容詞が持っている意味については、アカデミアの DLE の説明では、前二者の場合と三番目の A-oso の場合の「基語の意味を和らげる」という指摘は実情に合致しているが、A-oso の場合の「基語の意味を強める」という指摘には問題がある。本稿が

検討対象としている語例の場合にはそのような例が見当たらなかった。

本稿が検討対象にした A-oso の語例では、その他の資料の語例の検討も加えて考察すると、その派生形容詞は基語の意味を和らげていて、和らげつつ基語の意味と同義にするか、基語の意味を具体的な意味に限定している、ということが判明した (3.3.3.3)。すなわち、これらの派生形容詞の意味は、接尾辞 -oso/-os をやわらげ表現の手段であると仮定すれば、説明可能であることがわかった (3.3.3.4)。

他方、「スペインの話しことばに対してスペイン系アメリカの話しことばの婉曲表現的性格や過度に丁寧な表現を好む性格が、何度も力説されてきた」⁷⁾ が、南北アメリカ・スペイン語における A-oso の場合の接尾辞 -oso/-osa の和らげ表現の手段としての機能も、この性格と関連しているであろう。

注

- 1) 山田ほかの『中級スペイン文法』では 395 頁から 403 頁にかけて様々な接尾辞が紹介されている。そこでは形容詞を形成する接尾辞のなかに -oso/-osa が含まれている。「名詞+接尾辞 → 形容詞」のなかに *cariño*「愛情」→ *cariñoso*「愛情のこもった」などが、「動詞+接尾辞 → 形容詞」のなかに *borrar*「消す」→ *borroso*「不鮮明な」などが紹介されているが、参考情報として形容詞から形容詞を派生する接尾辞の存在にも言及されていて、その実例のなかに *amargo*「にがい」→ *amargoso*「にがみのある」が含まれている。ただし、*amargoso* という形容詞は、アカデミアの辞書 (DLE) では *amargo* の同義語となっている。
- 2) 高垣の辞書 (2007) では、この見出し語に「意志の強い、ひたむきな、熱意のある」と「わがままな、強情な」という語義が与えられている。しかし、たとえば上田ほかの辞書 (2006) では「熱意のある」と「気ままな、わがままな、強情な」という語義が与えられていて、こちらのほうが DLE の語義に対応している。なお、*voluntad* が「意志」で、*voluntario* が「自由意志による」である。*voluntarioso* に高垣の辞書 (2007) の「意志の強い」という意味が対応していれば、-oso/-osa が基語の意味を強調していることになろう。しかしながら、DLE の第 1 義は «Deseoso, que hace con voluntad y gusto algo» 「ほしがっている、意志と好みで何かをする」であって、この定義に「熱意のある」という日本語を当てるのは問題がなさそうだが、高垣の辞書の「意志の強い」という訳語を与えるのには問題があろう。
- 3) 形容詞から形容詞を派生する接尾辞が基語の意味を強調したり和らげたりするという現象は、接尾辞 -ón/-ona の場合によく起こっている。DAMI によれば、チリにおいて、たとえば *frio*「寒い」という基語からの派生形容詞 *fríon/friona* は「少し寒い」と「とても寒い」という、和らげと強調の意味で使われているし、*raro*「まれな」から派生した *rarón/rarona* には「少しまれな」と「とてもまれな」という、和らげと強調の意味がある。基語の意味を強調したり和らげたりするという現象は、このような明確な語義で使われる派生形容詞の場合に観察される現象であろう。*gravoso* や *voluntarioso* の場合、*frio* や *raro* の接尾辞 -ón/-ona による派生形容詞に見られるような基語の意味の強調が表現されている可能性は認めづらい。
- 4) 皮肉 (アイロニー) は問題の語の意味の変化には関係せず、その語が発せられる文脈・状況や対人関係などに解釈を依存することが多い (谷口 2003: 150)。
- 5) Haverkate (1994: 209): «Podríamos definir el atenuante como una partícula, palabra o expresión que sirve para modificar el significado de un predicado de forma que se indique que ese significado sólo se aplica parcialmente al objeto descrito». なお、和らげ表現一般については Miyoshi (2012) が、そ

してスペイン語のやわらげ表現については三好（2012）が論じている。

6) Cf. Briz (1995: 109)。

7) Cf. Montes (1980-81: 674): «Más de una vez se ha recalcado el carácter eufemístico e hipercortés del habla hispanoamericana frente a la española». なお、このような指摘と合致する意図の研究書に Kany (1960) がある。

参考文献

- 上田博人ほか (2006). 『プエルタ 新スペイン語辞典』, 研究社。
- 高垣敏博 (監) (2007). 『小学館 西和中辞典』 (第2版), 小学館。
- 谷口一美 (2003). 『認知意味論の新展開 メタファーとメトニミー』, 研究社。
- 山田善郎ほか (1995). 『中級スペイン文法』, 白水社。
- 三好準之助 (2012). 「スペイン語の『やわらげ表現』について」, 『京都産業大学論集』, 人文科学系列第45号, 35-58。
- 三好準之助 (2020). 『南北アメリカ・スペイン語辞典』, 大学書林 (DAMI)。
- Alonso, M. (1958). *Enciclopedia del idioma*. Madrid: Aguilar.
- Briz, A. (1995). “La atenuación en la conversación coloquial. Una categoría pragmática”, en Luis Cortés Rodríguez (ed.), *El español coloquial. Actas del I simposio sobre análisis del discurso oral: Almería, 23-25 de noviembre de 1994*, Universidad de Almería, pp. 103-122.
- DADAA: Real Academia Española y Asociación de Academias de la Lengua Española (2010).
- DAMI: 三好準之助 (2020)。
- DLE: Real Academia Española (2014). *Diccionario de la lengua española*, 23.^a edición. Versión de Web.
- García de Diego, V. (1970). *Gramática histórica española*. Madrid: Gredos.
- Gómez de Silva, G. (2001). *Diccionario breve de mexicanismos*. México: Academia Mexicana y Fondo de Cultura Económica.
- Gutiérrez Cuadrado, J. (1996). *Diccionario SALAMANCA de la lengua española*. Madrid: Santillana.
- Hanssen, F. (1966 [1913]). *Gramática histórica de la lengua castellana*. Paris: Société LES PRESSES DU MARAIS.
- Haverkate, H. (1994). *La cortesía verbal. Estudio pragmatolingüístico*. Madrid: Gredos.
- Kany, C. E. (1960). *American-Spanish Euphemisms*. Berkeley and Los Angeles: University of California Press.
- Kany, C. E. (1962). *Semántica hispanoamericana* (Traducción del inglés de Luis Escolar Bareño). Madrid: Aguilar.
- Miyoshi, J. (2012). *La atenuación del japonés*. Saarbrücken: Editorial Academia Española.
- Moliner, M. (1998). *Diccionario de uso del español*, 2.^a edición. Madrid: Gredos.
- Montes, J. J. (1980-81). “Sobre el como de atenuación”, en *Boletín de Filología de la Universidad de Chile. Homenaje a Ambrosio Rabanales*, 667-675.
- NGLE: Real Academia Española y Asociación de Academias de la Lengua Española (2009). *Nueva gramática de la lengua española*. Madrid: Espasa Libros.
- Real Academia Española y Asociación de Academias de la Lengua Española (2010). *Diccionario de americanismos*. Madrid: Santillana Ediciones Generales (DADAA).

The *-oso/-osa* Suffix in American Spanish

Jun-nosuke MIYOSHI

Abstract

Spanish language is abundant in suffixes, which are actively used for word-formation. This article treats the suffix, *-oso/-osa*, which is considered dialectologically to be one of the distinctions of American Spanish. Here we report the actual status of its usage, analyzing and reexamining the description of *Diccionario de Americanismos (DAMI)*, recently published in Japan. Especially in the case of adjectives derived from the base-adjectives, we have found, through the semantic analysis of many derived adjectives, the possibility that the function of *-oso/-osa* is interpreted, not as “semantic intensification” previously described, but rather as “semantic delimitation” of the base-adjectives. Consequently, we have reached the hypothesis that, when the suffix is applied to base-adjectives in American Spanish, its function is “pragma-linguistic attenuation” or “softening”, which is one of the dialectological features of American Spanish.

Keywords: American Spanish, suffix *-oso/-osa*, adjectives derived from base-adjectives, semantic delimitation, pragma-linguistic attenuation.

